

Data

時計台（国指定重要文化財）

開 館：9：00～17：00

休 館：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始

入館料：大人200円、中学生以下無料

豊平館（国指定重要文化財）

開 館：9：00～17：00

休 館：年末年始

入館料：無料

清華亭（札幌市指定有形文化財）

開 館：9：00～16：00

休 館：年末年始

入館料：無料

旧永山武四郎邸（道指定有形文化財）

開 館：9：00～16：00

休 館：年末年始

入館料：無料



●お問い合わせ先
札幌市観光文化局文化財課

Tel. 011-211-2312

の試験場としていた。

清華亭と同様のつくりは旧永山武四郎邸（北2条東6丁目）にもあって、ほぼ同時期の建築と推定されている。和洋室併設住宅のさがけとして

も注目されている。

北海道大学付属植物園の博物館は、1882（明治15）年に建てられた。開拓使事業の最後を飾る洋風建築である。なにか新機軸を求めてであろうが、その建築設計をわざわざボストンの建築家ベートマンに依頼している。木造下見板の外壁は共通だが、建物全体に細かな装飾がちりばめられて他の開拓使建築とひと味違った建築になっている。

清華亭は北大クラーク記念会館の南隣り、敷地が北8条通りから一段低く、木立に隠されてひっそりと建っている。1880（明治13）年、小庭園を整え「貴賓の接待所」として建てられた。つくりとしては住宅建築で、和洋ふたつの客間を併設している。ここは北大キャンパスを流れるサクシュコトニ川の湧水地で、開拓使は鮭鱒孵化などの試験場としていた。

そのほか、札幌農学校の附属農場に建てられた家畜房や穀物庫も開拓使の建築。また、簾舞の通行屋「旧黒岩家住宅」（1872年）や「琴似屯田兵屋」（1874年）も開拓使によって建てられた建築である。和風ではあるが、小屋組には洋風トラスがかけられているという特徴が注目される。

1877（明治10）年に建てられた工業局庁舎が北海道開拓の村に移築保存されている。もとは大通東の札幌工場構内において、開拓使の工業開発を推進した本部であり、時計台や豊平館を設計した建築スタッフもここで働いていたはずである。

幕末明治初期の関東一円で盛んにつくられた装飾漆喰で「鰻絵」と呼ばれる。その統帥が伊豆の長八親方で、伊豆松崎町には長八美術館があり長八やその弟子たちの仕事ぶりを見ることが出来る。豊平館の外壁には群青色のペンキが塗られていた。その顔料（ウルトラマリンブルー）はとても高価な輸入品だったが、幕末のウルトラマリンブルーとしては、金沢成興閣座敷の壁がよく知られている。

設けられていた。北の鹿鳴館といったところだ。1957（昭和32）年に中島公園へ移されるまでは大通1丁目、今の市民会館の場所にあった。1927（昭和2）年、背中合わせに公会堂が建てられてからも、迎賓館として使われ続けた。その伝統を継いで移築後は市民の結婚式場として使われ、2004（平成16）年までに2万組ものカップルがここから誕生している。

幕末明治初期の関東一円で盛んにつくられた装飾漆喰で「鰻絵」と呼ばれる。その統帥が伊豆の長八親方で、伊豆松崎町には長八美術館があり長八やその弟子たちの仕事ぶりを見ることが出来る。豊平館の外壁には群青色のペンキが塗られていた。その顔料（ウルトラマリンブルー）はとても高価な輸入品だったが、幕末のウルトラマリンブルーとしては、金沢成興閣座敷の壁がよく知られている。

シャンデリアに見る職人芸

豊平館の各室天井を飾るのがシャンデリア。その吊元に円形の漆喰レリーフが華をそえている。鳳凰にガラスの目玉を入れたり、朱彩をほどこしたりと見事な職人芸だ。



幕末明治初期の関東一円で盛んにつくられた装飾漆喰で「鰻絵」と呼ばれる。その統帥が伊豆の長八親方で、伊豆松崎町には長八美術館があり長八やその弟子たちの仕事ぶりを見ることが出来る。豊平館の外壁には群青色のペンキが塗られていた。その顔料（ウルトラマリンブルー）はとても高価な輸入品だったが、幕末のウルトラマリンブルーとしては、金沢成興閣座敷の壁がよく知られている。